



## 2022年度 第10回 エリア研修会

### 【テーマ】

「大会運営の心得と選手のマナー向上」

- ①支部大会においてレフェリーとディレクターの役割
- ②大会中起こった問題(起こりうる問題)
- ③その他、ルールに関する質問
- ④各支部の公認審判員の人数
- ⑤各都道府県テニス協会と審判員の関わり方において、  
審判員の更新ポイントの獲得はどのようにしていますか？
- ⑥その他

日本女子テニス連盟  
普及委員会

## 2022年度第10回 エリア研修会

オンライン (ZOOM)にて開催

東エリア3/3 中央エリア3/11西エリア3/17

10:00~17:00

第10回エリア研修会(10:00~12:30)は本部テーマのアンケート結果に沿って講習

講習後は支部の審判員の状況についての会議

時間	内容
10:00	エリア研修会 ・本部よりのテーマ 「大会運営の心得と選手のマナー向上」 (事前にアンケート調査、アンケートにそって講義) ①支部大会においてレフェリーとディレクターの役割 ②大会中起こった問題(起こりうる問題)
12:30	③その他、ルールに関する質問
13:00	④各支部の公認審判員の人数 ⑤各都道府県テニス協会と審判員の関わり方において、 審判員の更新ポイントの獲得はどのようにしていますか? ⑥その他
15:00	④~⑤ 会議 終了

・用意するもの

エリア研修会アンケート  
ルールブック

・講習ポイントについて

各自の公認審判員証に期日・講習会名(○エリア研修会)・ポイントを記入する。  
ポイントは2ポイント。  
各支部の担当者の方は受講者リストを作成し、後日公認審判員証にサイン。

<講師プロフィール>

東エリア研修会講師

田中信子氏

JTA: 審判資格認定員 国体委員会副委員長

ITF: ホワイトバッジレフェリー

中央エリア研修会西エリア研修会講師

山中友子氏

JTA: 審判資格認定員

ITF: ホワイト主審・ホワイトレフェリー

大会運営の心得と選手としてのマナー向上がテーマ  
各支部のアンケート結果についてこんな時どうするという形で進行了ました

## ディレクターについて

**ディレクターの主な役割** 大会前の準備、エントリー受付、リストと作成  
コート他大会に必要な物資と人員の手配をする

支部からのアンケートに基づく研修内容まとめ

ディレクター、レフェリーという大会の2本の柱の明確な役割分担をしていない支部もあり、  
選手としても参加しつつ大会運営に関わっているケースもある

公式大会ではレフェリー、ディレクターは選手として大会に出場できないことになっている  
但し、JLTFの全国レディース以外はJTAの公式大会ではないので、必要に応じてできる範囲で  
例えばプレーするときには代役をたてる、プログラムに記載の折は一委員として載せる、などの工夫を。

今後は少しずつ大会の運営に本来あるべき形を取れるような試みが必要でしょう

岡川理事長コメント

JLTF大会自体は愛好者を増やす。テニスをみんなで楽しみたいというのが目的なので、  
なるべく多くの人に協力してもらいながら大会を成功させるというのが第1の目的と思う

## レフェリーについて

スーパーバイザー (SV)は2022ルールブックに表記された新しい役割  
SVやレフェリーは審判団を束ね競技責任者になる

レフェリーの役割

大会前 要項 (ディレクターが作成、レフェリーが確認)  
ディレクター作成のエントリーリストをもとにシード決め、ドロー作成

大会中の主な仕事 試合スケジュール (OP)の作成 審判の教育  
試合のトラブルに対処  
結果の確認

SVやレフェリーはルールに関する最終責任者です  
支部からのアンケートに基づく研修内容まとめ

ドロー会議においてはレフェリーがドロー作成を責任をもって行う  
大会の全責任を負う訳ではないので運営スタッフへの指示はディレクターがすることもある  
当日のスケジュールや試合方法などの注意事項については選手を集め説明するよりも  
オーダーオブプレー (OP)と掲示板、HP,SNSなどの活用が望ましい

日没や天候不順による延期、中断等判断 コート移動も大事なレフェリーの仕事  
大会当日の朝の審判ミーティングをレフェリーが行うのも大事

## ●セルフジャッジの大会で

まず試合におけるフェアプレイを広めたい

ルールブックP249“セルフジャッジ5原則”を参照

ケースとその解決

ノットアップコールでもめたら

コールした選手が100パーセント確信があるか確認。安易にポイントレットにしない

スコアのくい違い。合意できない時

お互い譲らないポイントはなかったことになる

ルールを知らなくて、トラブルになる

公式掲示板やHPを使ってルールを周知

知っておいてほしいこと

- ・ダブルスで一人がアウトコール、パートナーはジャッジできない  
これはジャッジのくい違いではなくアウトコール成立
- ・フォルトコールした後入っていたと認めたら、一回目はレット、2回目から失点する  
パートナーが訂正に合意、初めてならポイントやり直し。合意しない場合失点
- ・ネットして入ったサーブのミスジャッジ訂正は常にそのサーブのやり直し

## ●ローピングアンパイア（RU）での問題と解決

リタイアをRUで処理してしまった

リタイアは認められないケースもあり。必ず、レフェリーに伝えるべき

\*\*コードオブコンダクト→選手は試合でベストを尽くさなければならない

毎朝の審判ミーティングで失格やリタイアは必ずレフェリーを呼ぶことを確認しておく

トラブルの処理について

両選手の話をよく聞いて、短時間で判断をしなくてはならない

判断がぐらついていると選手に見抜かれる。判断をきっちりと。

判断が厳しく時間を取るようなら早めにレフェリーを呼ぶ。レフェリーが最終決定者

エンドチェンジの休憩が長い。見かけたら、次の休憩の時に時間を図る

「時間です」と声をかけ、試合を始めてもらう

ポイントとポイントの間が長い

ボール拾いもあるので理にかなった時間内にプレーするよう促す

明らかに時間超過したらタイムバイオレーションを科す

時間内にプレーしてもらうことで試合進行が全然違ってくる

RUやSCUがその認識をもっていることが大事

「フットフォルト」の対応。コートの外からはフットフォルトのコールはできない

大事なのは試合がスムーズにいているが、威圧的な選手がいないかなどを見ておくこと

「トイレットブレイク」でチームメイトから、ドリンクを受け取った

ドリンク補給のためだけならコートは離れられないが、ついでにさっと渡されるぐらいなら問題ない

コーチングに当たらないかRUが注意しておく必要あり

RUは連絡係として配置、問題があったらレフェリーを呼ぶ

可能なら、自分達で解決できるものはその場で解決してもらう

実質連絡係でもルールを少しでも勉強して、解決できるとよい。

セルフジャッジでのボールの侵入にRUは？

止めるかどうかは選手の自由。怪我の危険性があればRUが止めなくてはならない

トラブルがあったときコートに入るタイミングはいつ？

選手で解決できそうか近くで待機しておき長引くようなら介入

選手が会場で具合が悪くなった時の対応。

熱中症、けいれん等 試合中でない時は大会関係者全員で対処

岡川理事長コメント

- ・RUで大事なことは
- ・RUは取り締まりはしなくてよい。選手が困っているときに助けてあげられる感覚でいてほしい
- ・選手に威圧的にならない。不安になるようなことはしない
- ・具合が悪そうな選手には 大丈夫？と一声かけてあげる  
トラブルが起こらないよう予め対策しておくことが大事

## ●SCUでおこる問題点

## ケースとその解決

ボールの侵入に気が付かない

選手は止められない。プレマッチミーティングの時にそこをしっかりと確認しておく

選手に先にコールされてしまった→明らかなら後から認めることも仕方ない

オーバールールが難しい

明らかなミスジャッジにだけ介入する

リラックスして見ているとこれは、と気づくことができる

サーブのネットの音が聞こえない。聞こえなかったことになる

「ネット」 サーブの通過点の音をよく聞く備えを

両選手がレットだったよという態度であれば、認めたほうが無難

SCUで「メディカルタイムアウト」の取らせ方が難しい

判断はレフェリーに SCUの責務ではない

けいれんのようなだが本人は足が痛いと言ってきている

判断はトレーナー、いなければレフェリーがする

「フットフォールト」のコールが難しい

足元ばかり見ないで、ボールを見ながら、その中にラインも選手を視野に入れて、

明らかに踏んだ時だけコールする

声の妨害はコードバイオレーション？

インプレー中の声の妨害は「ヒンダランス」。コードバイオレーションはインプレー中にはない

ボールが相手に向かっているときに声を出すのは「ヒンダランス」に当たる

周りがびっくりするような声を打ちながら出しているのは妨害行為にもなるので控えるよう伝える

選手のアピールの方が早くて訂正できなかった

「オーバールール」は選手がアピールしてからはできない

「アピールのあとではオーバールールできない。」と正直にいう

対戦相手が、怪我をしたとき、相手のコートに入ってもいいのか？

入ってダメということはない。手助けはできるが手当てはできない

## その他、ルールに関する質問など

・自分でアウトコールをインに訂正したとき

一回目だけレットにする。次から失点。変更されたルールは掲示板やHPで選手に周知

仲裁に入って、選手が納得するまで、中断してよいのか？

ダメ。時間をかけ過ぎない。場合によってはコードバイオレーション

コンタクトレンズを探すのに理にかなった時間は？

決まっているわけではないが、3分ぐらいが妥当

2018年 飲み物、ラケット補充はRUの仕事から削除、レフェリーしかできないのか？

RUの責務ではないので、削除。状況によりできる人がしてあげるのは構わない

5-5や、7-7になったときタイブレークでプレー。その結果で、終了していいのか？

お互い納得で始めた結果なので良い。間違ったスコアをドローに記載

会場にいて受付忘れ遅刻

みんなが楽しく、の大会では選手に注意し対戦相手に了解を得て認めても良いのでは？

けいれんで動けない

ルールに則り エンドチェンジまでのポイント、ゲームを相手にあげて、その時間内で処置

相手選手を待たせない

1セットマッチで、5-5でタイブレークをしてしまった。ラウンドロビンでも6-5でよいのか？

良い

以上

## テニスルールQ&A

<https://www.ita-tennis.or.jp/registration/tabid/737/Default.aspx>

ルールに関する様々なケースと解決例が掲載されているので参考にしてください

“大会運営の心得と選手のマナー向上”をテーマに各支部へアンケートを行いました。  
その結果をもとに必要なルールを使って疑問が解消できるよう講習を進めていきました。

- アンケート：①支部大会におけるディレクター、レフェリーの役割  
②大会中に起こった問題、起こりうる問題 セルフジャッジの場合/SCUの場合/RUの場合  
③その他ルールに関して

### 大会運営をスムーズに行うためディレクターとレフェリーの役割を理解しましょう

ディレクターの役割 ルールブック P71 参照

レフェリーの役割 ルールブック P201 参照

\*2022年 運営委員にスーパーバイザーの役職が追加 (レフェリーと兼務できる)

普及団体であるJLTFの大会もその役割を理解し、公式大会規則に近づけていきましょう。

### セルフジャッジで大切なこと

- ・選手はスポーツマンシップに則って相手を尊重し、正々堂々とプレーし正確なジャッジをすること
- ・セルフジャッジの5原則を守る
- ・相手のジャッジを尊重して受け入れる
- ・どうしても相手の判定がおかしいと思うなら、RUを通して確認するのがよい。
- ・相手の判定に不満があるときは、冷静に節度を守った態度で確認を行うことが大事。
- ・試合中、ヒートアップして相手に暴言などを吐かないようにする。

### セルフジャッジでミスジャッジをし訂正した時

- ・1回目はポイントレット 故意ではない妨害 (明らかなウイニングショットはポイント成立)
  - ・2回目以降は失点 故意の妨害
  - ・ペアで判定の食い違ったとき、失点するケースとポイントのやり直しになるケースの説明
- Q:ダブルスでレシーバーがフォールトをコールしたがペアが即座にインと訂正した場合はやり直し?  
A:①のケース・・・やり直しではなく失点  
\*第2サーブがネットに触れた後 レシーバーがミスジャッジをし訂正した時 第2サーブのやり直し

### セルフジャッジの試合 ロービングアンパイアの対応

#### ロービングアンパイアのオーバールールについて

\*オーバールールは100%確信あるときのみ

\*コート外で見ていた時とコート内で見ていた時のオーバールールの対処法の違いを理解すること

#### ロービングアンパイア フットフォールトを見たとき

Q:相手サーブの時フットフォールトをどうすればいいのか分からない

A:選手同士では取れないのでRUに依頼する。RUがない大会では本部の方を呼んで対処してもらう

Q:フットフォールトの罪悪感が薄い

Q:フットフォールトで呼ばれる事が多い

Q:RUがコートに入ると下がり、離れるとまた元に戻る

Q:大阪、奈良、富山：フットフォールトの問題を上げている

A:外で見ていてフットフォールトしていると思ったら、ポイント間、プレーの妨げにならないタイミングで入る

A:ネットポストのあたりで見る→サーブを打った瞬間にコール

A:両選手(チーム)を平等に見る(2ゲームが目安)

\*日頃のプレーでお互いに注意しあい、試合中にコールされないようにする

\*掲示物などで注意喚起もよい方法(HP、試合会場のインフォメーションボードなどを有効に使用する)

\*セカンドサーブでフットフォールトをすればダブルフォールトになる認識をもつ。

#### イン・アウトでもめる

・「どうしましたか？」 両者ネットのところに来てもらい、選手の言いたいことを聞く

・「確かにアウトでしたか？」「ラインとボールの間に隙間を見ましたか？」

・「はい！アウトでした」 100%自信があるコールと確認出来たらアウトが成立

・「自信を持ってアウトとコールしているので、アウトが成立します」

・「試合を続けましょう」「試合を再開してください」 結論を出したらコートを出る

選手が試合に戻れるような、受け入れてもらえるような言い方を試みる

・コート内で見てください→1~2ゲーム見て安心してもらう→外周巡回

・判定に自信がない時 ミスジャッジとして1回目はポイントのやり直し

#### スコアが分からなくなる

Q:自分の不利なポイントは覚えていなかったり、自分に有利に判断する

Q:話し合いをしても納得してくれず、試合を再開してくれない。

Q:桑名杯の時にタイブレークで選手がわからなくなってしまう。

Q:10ポイントタイブレークでスコアがわからなくなってしまう。

A:両者合意できるポイントを合計したポイントから再開

・合意できるポイントを全部足して再開する。

・片方の選手がはっきりと覚えている場合もあるが、**両者合意が必要**

・スコアに応じたサイドからサーブをして再開

◆このようなことが起きないようにするために

- ・サーバーがサーブを打つ前にスコアをアナウンスする
- ・タイブレークの数え方に不安の時はRUがサポートする

◆もめているコートに入る時はRU同士連絡を取り合い、担当コートに支障のないようにお互いにカバーしあう。

#### 両者がコール出来る判定のトラブル

- ・「どうしましたか？」できるだけ詳しく状況を聞き出す。
- ・強気で話す選手を優先して判断しないように気をつける
- ・「100%確信がある」と両者が譲らない場合はレットとなる（ネットしたサーブの場合はサービスのレット）

◆トラブルを防ぐために相手のショットを判断するときには、100%確信があるときに行うこと。打った選手もすぐに認めて申告することが大事です。

#### レットのコール…リプレイ？ポイント成立？

- ・レットのコールはプレーを止めてポイントをやり直す時  
ボールが入って来た時、両選手、チーム/帽子などを落とした時、相手選手、チームのみ
- ・チャンスボールの時のレットのコールは？

ボールが入って来た時に気がついたタイミングでどちらの選手もコールできる

◇チャンスボールを打って確実に決まるかどうかはわからない。その時にボールが入って 妨害があったと判断したときに両選手ともコールできる。

◇ボールを打つ前→リプレイ（反射的な返球の場合もあり）

ボールを打った後（ボールがアウトした、ネットを超えない、エース、ウイニングショット）→ポイント成立  
気づかずレットのコールをしないままプレーが終わった→妨害はなかった

#### SCUの時の問題の解決方法

##### レットのコールと判定に対してのクレーム

主審（SCU）がいる試合では主審（SCU）がコールする

Q:選手がレットのコールをしてしまう

A:レットのコールはしてはいけないことを選手に認識してもらうことが大事

Q:ファアラインのジャッジにクレームを付けられることがある。

A:ファアラインとは審判台から遠いサイドラインのこと。なかなかSCUの場所から見にくい。

自信をもってオーバールールするほどのボールではない時は選手の判定を尊重し、後押しをしてあげる。

クレームをつけられたとしてもきわどい判定は選手の判定を尊重し成立することを相手選手へ伝える。

Q:Aがアウトをコールし、SCUもアウトとコールしたが、相手選手から入っていると云われボールのあとをみてSCUがインに変えた

A:ボールマークの調査を出来るのはクレークコートだけ

相手選手のアピールによって判定をかえてはいけない。アウトを成立させる。

選手も審判も支部会員で顔見知りだったり友達だったりするが、どんな時でもアピールに対して、判定を変えることは決してしないでほしい。

Q::SCUがレットをかける前に選手は入って来たボールが気になったがSCUがレットをかけたタイミングはボールを打ってからでそのボールはアウトだった。選手はボールが入って来たのが気になったからと言った。

A:選手はレットのコールができないので、コールがあるまではプレーを続けなくてはならない。

この場合はボールを打った後にレットがコールされたので、アウトが成立する。

プレーが終わり失点してから、ボールが気になったからの理由でポイントのやり直しにはならない。

◆どうしたらタイミングよくコール出来るでしょうか？

・SCUのレットのタイミングは難しく、経験が必要になってくると思う。ちょっとした気持ちの余裕、周辺に視野を意識して広げることで回りに目が向く。スコアカードばかりに見ないようにしましょう。

・隣のコートでスマッシュしたときの音、後ろのコートで大きな物音があったりしたら、自分のコートにも影響が出るのではないかと予測することも大事。

◆何がどの順番で起こったか自分の頭の中で時系列を作ると判断しやすい。

◆JLTF大会では選手がレットのコールをしても良いなど、試合進行がスムーズに行くように決めてもよいのでは？

#### 誤りの訂正

・ノーアドの試合 デュースで1ポイントプレーして気が付いた

その結果が成立 2022年ルール改正P60② もう1ポイントプレーするという旧ルールは無くなった

\*一度選択したサイドは変更できない

#### トイレットブレイク

・すでにTBを使った選手がトイレに行きたいと行って来た「時間内に戻って来てください」

・1セットマッチの試合 大会で決定する 例えば緊急時のTBはOKなど大会で決定

・TBはトイレに行くための時間、違反行為がないようにする

トイレに行った後、飲物を買う→✖ RU、付き添いのスタッフがヘルプ

顔だけ洗っていた→✖ トイレを使うよう声掛け

#### メディカルルールの確認

・MTOはいつとれる？

原則、エンドチェンジまたはセットブレイク

緊急時はすぐ（転んで起き上がれない、頭を打った・・・）

・1カ所につき3分

・トレーナーとレフェリー要請→診断→手当（3分）

- ・熱中症は1試合に1回
  - ・筋けいれんではMTOはとれない
  - ・トレーナーのいない大会ではレフェリーが症状を確認 RUが立会い選手自身で手当を行う  
右手首にテーピングしたい→RU 手伝い、OK コロナ対策で手指消毒をする
  - ・リタイアの最終決定はレフェリー、RUが決定しないようにレフェリーのリタイアの指示に従う
- Q:目にボールが当たり、コンタクトしていたのでレフェリー判断でリタイアにした。その決定に不満の声。  
A:その判断は適切だった、自信を持って選手に伝えてください

#### MTOの手順 (トレーナーがいない大会で)

- ・レフェリーの到着を待つ→両選手はベンチへ
- ・レフェリーが到着しどんな症状か、どんな手当をするか判断する  
「MTOを取ります」
- ・RUが判断出来る症状の場合はレフェリーへその状況を伝える
- ・(救急箱持って来てください、足にテーピングしたい、まめが潰れた)
- ・SCU、RU手当が始まったらストップウォッチで時間(3分)の計測
- ・「残り2分です」「残り1分です」「残り30秒です」→相手選手にも知らせる
- ・3分経過したら「時間です」
- ・3分より早く手当が終了したら「手当が終了しました」→相手選手にも知らせる
- ・ソックスや靴を履いて準備ができラケットを手にした時「タイム」試合再開

#### 筋けいれんの手当ての手順 (トレーナーのいない大会で)

- ・レフェリーの到着を待つ
- ・選手からの情報をもとに、筋痙攣かどうかを判断する。
- ・筋けいれんと判断→MTOは取れない
- ・「MTOは取れないです。このままプレー続けますか？エンドチェンジの手当を受けますか？」
- ・①ポイント間の時間を守り、プレーを続ける
- ・②プレー続行と言いながら、プレーが続けられない  
25秒(ポイント間)後→コードバイオレーション ゲームの遅延 ウォーニング
- ・③プレーが続けられないので手当を受けたい→エンドチェンジ、セットブレイクの時間内に手当、  
それまでのポイントまたは相手にあげる
- ・1試合中、2回まで手当を受けられる(連続しなくてもよい)  
(例:3オールの時、1ゲーム、ポイントを相手にあげて4-3のエンドチェンジの時間内で手当てをする)  
エンドチェンジ、セットブレイクの時間を計り、30秒前に「タイム」
- ・④これ以上続けるのは危険、深刻な状態→リタイア レフェリーの最終決断  
選手はレフェリー判断を受け入れないといけない。

#### サーブとレシーブをする時

- \*ノットレディについて  
レシーバーが構える前のサーブはそのサーブのやり直し(サーバーはレシーバーが構えたことを確認する)  
レシーバーが構えたのを確認し、2ndサーブを打つ直前にノットレディを知らせた時又は、サーバーが  
それに気付かずサーブを打ってしまった→ノットレディが成立 1stサーブ
- ・ノットレディはサーブを打った後は認められない

Q:1stサーブがフォルト。レシーバーがまだ準備されていない状態で2ndサーブを打とうとしたので、  
レシーバーが「ノットレディ」と言ったら1stを要求することがある。

A:レシーバーがまだ構えていることをサーバーは確認していないので2ndサーブから始める。。

Q:1stサーブをネットにかけ、そのボールをペアが拾っているのに気が付かずサーバーは  
2ndサーブを打った。レシーバーは気になりながらも打ち返したが、ボールはアウトだった。

この場合はアウトが成立するのか？2ndのやり直しになるのか？

A:気になりながらも返球したのなら、ノットレディは成立しない。アウトが成立。

(返球したらレシーブをする意思があったとみなされる)

気になったときは、サーブを打つ前にサーバーにノットレディを表明する。

#### 時間の管理 こんな時どうしますか？

- ①ポイント開始の時間が微妙に長い  
プレーを始めるよう声をかける(ソフトウォーニング)  
「プレーを始めましょう」「レシーブの構えをしてください」
- ②Q:サーブをするまで10回以上ボールをバウンドさせている  
A:バウンドする回数に制限はないがポイント間の時間のオーバーしたらタイムバイオレーション
- ③ペアの話合いが明らかに長い→タイムバイオレーション  
但し、この場合もソフトウォーニングで事前に防ぐことが大事
- ④ノーアドサイドが決まらない「どちらでサーブしますか？」とうながす。
- ⑤MTO終了後タイムのコールの後30秒過ぎてもプレーを始めない→コードバイオレーション  
\*まずはソフトウォーニングで気づかせてあげる事が大事。

#### テニスウェア

Q:Tシャツとゲームシャツの違い

A:テニス用品を扱っているメーカーはルールに沿ってして製造しているので、製品名に気を付ける。

\*レギンスだけのプレーが可能になった(2022年服装規定P149)

(重ね着をした場合ロゴの大きさと数が違うことに注意)

- ・マスクのロゴの大きさが男女で違う、女子の帽子的ロゴのつける位置の変更がある ( 2022年服装規定P149)
- \* ルールに違反していると思われるウェアを見たときの対応の例  
「そのウェアでプレーしますか?」「その帽子がぶつてプレーしますか?」選手自身に気づいてもらう。  
「前の試合では何も言われませんでした、だめですか?」「見落としかもしれません。他にありませんか?」
- ・ウェアについて最終判断はレフェリーが行う

#### コーチングの問題 ジュニア大会で保護者からのアドバイス

Q:ジュニア大会で試合中の保護者からのアドバイスに対しての対応

A:ロービングからはなかなか注意しにくいので、大会運営側に報告して保護者全体に向けて注意してもらう

\* 電子機器の使用禁止 2022年のルール改正→スマートウォッチはスイッチを切った状態でも着用禁止

#### 雨の中断

プレーするのに危険な状態の時 滑る、目に入って見えない→SCU、RUの判断、またはレフェリーの指示

#### RU、立って見るか、座って見るか

どちらでも決まりはない、RUの仕事が出来れば良い

#### コートに入るタイミング

Q:RUの時 コートに入ってくださいと言われたときはいつまで入れればよいか

A:両選手平等に見れるよう、2ゲームを目安に見てコートを出る

選手が不安そうなら、また戻ってきますからと言って、安心してもらう

#### SCUが気が付いていないサービスの順番をRUは正してもよいか

RUはARと同じ仕事をするので気が付いたら正してよい

#### スポーツマンシップとフェアプレー

- ・スポーツする時に必要なもの①相手選手②ルール③審判
- ・この3つを尊重して全力でプレーし、良い試合を作る心構えがスポーツマンシップ
- ・フェアプレーはスポーツの基本。相手をリスペクトしてプレーする事が大切です
- ・セルフジャッジの試合では審判がいないので、選手が審判しながらプレーする事になる。
- ・ルールはお互いに気持ちよくプレーするためにある、罰するためにあるのではないです。

Q:これはスポーツマンシップに則っていますか?

- ・RUへの暴言 ジャッジでもめた時に
- ・自分の有利なように判定する、主張する (イン・アウト・スコアの間違い)
- ・ボールの受け渡しが親切でない

#### 最後に

- ・試合会場にはルールを知っている人、知らない人、知っていても守らない人、いろいろ選手がいます
  - ・どの選手にも公平に時には毅然と、言葉遣い、分かりやすい言い方、顔の表情も気を付けて接しましょう
  - ・気持ち良く試合を楽しむためにお互いをリスペクトする事がマナーの向上になるのではないかと思います
- ◆審判員、支部会員、選手にルールを知っていただくためにホームページの活用、守って欲しい項目を試合会場に掲示するのもよい方法かと思います。

#### 講習後の質問

Q:ノーアドの試合でアドサイドのラリーの途中でノーアドと気が付き、止めた

A:ラリーを止めることができないので止めた方の失点。ただし両者が納得した時はデュースで再開も可能。

ノーアドの時に限らず、プレー中にスコアの間違いに気づいても、プレーを止めてはいけません。

必ず、プレーを終了してから、スコアの間違いをたずねること。

Q:トレットブレイクをすでに1回取った選手がもう1回取って時間内に戻って来ない時の対応

A:コードバイオレーション、時間の遅延行為の対象になる

Q:ダブルスでAフォールト、Bインと判定したら。

A:ペアで判定の食い違いで失点、ただし、Aがインと認めたらレットでポイントのやり直し

Q:レシーバーのレディを確認してセカンドサーブをうちました。蜂が飛んできてネットレディ状態になったら?

A:トスアップしているのならファーストサーブから、サーブを打つ前だったらセカンドサーブのやり直し

Q:ラリー中、カウントが間違っているよ!と言ってプレーをとめた

A:とめた方の失点

プレー中に声を出してよいのは判定のコールのみ。終わってからポイントの確認をする。

Q:熱中症からの熱けいれんはMTOは1回取れるか?

A:取れる。